

「わくわくほうせい！」  
～多摩キャンパスを教材にしよう！～  
企画書（実施例から）

法政大学経済学部山崎ゼミ

2010年4月

## 概要

法政大学多摩キャンパスは、元々里山であったこともあり、都内でありながら広大な面積と多くの生態系を有する自然豊かなキャンパスである。「わくわくほうせい！」は、その自然の豊かさを利用し、子ども達が自然について楽しく学べ、地域の方々と親交を深めていくことができる環境となるよう、多摩キャンパスそのものを教材にする、という企画である。(希望のグループを、随時受けついでいるので気軽にご連絡ください。)

## 目的

### ① 地域社会の場として提供する

→自然豊かな土地にある法政大学多摩キャンパスは、バードウォッチングや、幼稚園生が遠足として利用するなど、地域に開放されたキャンパスである。これを利用し、地域と地域をつなぐ役割を大学が果たす。

### ② 子ども達に自然に触れてもらい、自然の中に理科が詰まっていることを体感する

→都市化が進んでいる現在、自然と触れ合う機会が減少している。自然の中には理科がたくさん詰まっている。子ども達が実際に自然に触れ、自然にあるものだけで遊んでもらうことで、楽しく理科を体感してもらう。

## 対象

法政大学多摩キャンパス近郊地域の幼稚園生・保育園生・小学生（町田市相原地区、相模原市城山地区、八王子市寺田地区等）を随時受け付けています。



法政大学多摩キャンパスの近隣地図 と キャンスマップ

内容（2時間程度。短縮可能）

多摩キャンウォークラリー（約30分）

→大自然を堪能してもらうため、ハイキングコース等を歩きながら、自然に関するクイズを出すなど、楽しみながら自然を肌で感じ、考えてもらう。



落ち葉で焼き芋（1時間半、短縮可能）

→自然にあるものだけで焼き芋を食べることができる！今の子どもは焼き芋を知らない子が多く、また、できる環境も少ない。自分たちで落ち葉を用意し、焼いて手作り焼き芋を食べてもらおう。

落ち葉は子ども達が拾うだけでは量に限界があるため、事前に清掃の方から事前に必要最低限の量は確保する予定である。時間短縮にもつながり、落ち葉が足りなくて失敗ということも未然に防ぐことができる。

**マニュアル**

集めた落ち葉を燃やす→熾き火になったら塗らした新聞紙で包んだサツマイモを火に入れる→待つ（1時間半）→出来上がり

用意するもの：落ち葉（事前に清掃の方から調達）、さつまいも、アルミニウム箔、  
バーベキュー設備（落ち葉や火の粉が風で飛ばないための安全確保）



### 草や土で絵を描こう (約 45 分)

→草や土や花で絵の具を作ることができる。子ども達自身で草花を収集し、絵の具を作る。作成した絵の具を使って多摩キャンパスの自然や空などスケッチしてもらう。  
(焼き芋を焼いている時間を利用)

#### マニュアル

草花：(集めた草を煮る) →草花をよくすり潰す→少しずつ水を加え調整する→濾す→完成

土：土の落ち葉や小石などを取り除きすりつぶす→茶こしでふるいパウダー状にする→少しずつ水を加え混ぜ合わせる→つなぎとしてのりを加える→完成

(紫芋から抽出した、アントシアニン、水性ペンなども活用する)

用意するもの：茶こし、のり、草・土・花 (自己調達)



#### 使用設備

##### 研究実験棟

→開会式、閉会式、子ども達の荷物置き場に。4階化学実験室を希望。

##### 経済食堂テラス (BBQ で使用される場所)

→焼き芋を作るため。

##### ハイキングコース

→子ども達に大自然を堪能してもらうため。基本歩くのみ。

## 安全性について

今回の企画では、火と食品を扱う場面がある。その為、火の扱いと衛生面に注意が必要となる。火の扱いはスタッフが行うことを厳守する。焼き芋では外で遊んでいる最中に食べるため、衛生面をしっかりと配慮しなければならない。焼き芋を食べる前に、子ども達には手洗い・うがい・アルコール消毒などを徹底する。

また、ハイキングでは子ども達が道を外れないように注意が必要である。ハイキングコースの途中では、崖など、危ない箇所も幾つか存在する。危険箇所については事前に把握し、スタッフ全員が共有する。危険箇所を子ども達が通行する際は、同行するスタッフが崖側に立って、子ども達に注意を促す。



平成 21 年度 実施後の記念撮影